

解答プリント「中学社会・地理的分野」

■発展プリント

9 中国・四国地方／近畿地方

【評価の観点】 ㊦：思考・判断・表現 ㊦：技能 ㊦：知識・理解

解答例	解説
<p>㊦ (1) a 季節風〔モンスーン〕</p> <p>㊦ b ため池</p> <p>㊦ (2) 野菜 ア</p> <p>㊦ 栽培方法 促成栽培</p> <p>㊦ (3) 限界集落</p>	<p>㊦ (1) a 日本海側は冬の湿った北西の季節風が中国山地にぶつかり雪や雨をもたらす。太平洋側は夏の湿った南東の季節風が四国山地にぶつかり大量の雨をもたらす。</p> <p>b 瀬戸内海沿岸は一年を通して降水量が少ないため、干ばつの被害が深刻となった。そこで、古くからかんがい用のため池がつくられ、讃岐平野には約 14000 ものため池があるといわれている。第二次世界大戦後、水不足を解消するため、讃岐山脈にトンネルをほって吉野川の水を讃岐平野まで導く香川用水がつくられた。この用水によりため池の役割は低下した。</p> <p>(2) 野菜 イのじゃがいもの生産量が最も多いのは北海道、ウのキャベツの生産量が最も多いのは群馬県、エのねぎの生産量が最も多いのは千葉県である（2011 年）。</p> <p>栽培方法 促成栽培は、温暖な気候と温室やビニールハウスなどを使用して、他の地域より早い時期に野菜などを出荷する農業である。品薄の時期に商品を生産するため高く売ることができる。</p> <p>(3) 公共施設の閉鎖、バスなどの路線の廃止、商店の減少などにより社会生活を維持することが困難となる。</p>
<p>㊦ (1) 東西、南北の道路が直角に交わっている。(19 字)</p> <p>㊦ (2) みかん</p> <p>㊦ (3) イ</p>	<p>㊦ (1) 京都に造営された平安京は、唐の都長安を参考にしてつくられた計画都市で、道路が碁盤目状に交差している。また、京都御所を基準としてつくられていることから、北に向かうことを「上ル」、南に向かうことを「下ル」という表現が生まれた。</p> <p>(2) みかんは温暖な気候に適した果実であるため、上位 5 県はすべて静岡県から西に位置している。みかんの生産量は 1968 年から 2003 年まで愛媛県が全国一であったが、2004 年以降は和歌山県が生産量が日本一となっている。ただし、かんきつ類の生産量は現在も愛媛県が全国一である。和歌山県では日あたりのよい斜面を中心にみかん栽培が行われている。</p> <p>(3) 姫路城は 1993 年、清水寺は 1994 年に「古都京都の文化財」として、東大寺は 1998 年に「古都奈良の文化財」の 1 つとして世界遺産に登録されている。彦根城は現存する 12 の天守を持つ城の 1 つで国宝であるが、世界遺産ではない。</p>